

第2期

根室市子ども読書活動推進計画

読書でこころの「根」を広げ、知性の「室」をいっぱい^{へや}に



根室市教育委員会

● ● 第2期根室市子ども読書活動推進計画 目次 ● ●

読書でこころの「根」を広げ、知識の「室」をいっばいに

はじめに

第1章	計画策定の基本的な考え方	1
1	計画策定の趣旨	1
2	計画の対象	1
3	読書活動の対象	1
4	計画の期間	2
第2章	根室市の子どもの読書をめぐる現状と課題	3
第3章	計画の基本的な方針と目標	12
1	基本方針	12
2	基本目標	12
3	目標指標	13
第4章	推進のための具体的な取り組み	14
1	家庭における子ども読書活動の推進	14
2	地域における子ども読書活動の推進	16
3	保育所・幼稚園・子ども園における子ども読書活動の推進	18
4	学校における子ども読書活動の推進	19
5	図書館における子ども読書活動の推進	21
第5章	推進体制の整備・充実	25
1	関係機関等との連携・協力体制の推進	25
2	推進体制の整備	26
3	啓発・広報活動の推進	26

<資料編>

「根室市子ども読書活動推進計画アンケート調査」集計結果

<参考資料>

- ・子どもの読書活動の推進に関する法律（文部科学省）
- ・子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画概要（文部科学省）
- ・第2期根室市子ども読書活動推進計画策定市民会議設置要綱
- ・根室市子ども読書活動推進計画策定市民会議実施状況
- ・根室市子ども読書活動推進計画策定市民会議委員名簿

はじめに

根室市の次代を担っていく子どもたちが明るく健やかに成長することは、市民誰もが願うことであります。

そして子どもの人格を形成する上で、読書が大切な役割を持つことは、誰もが知るところであります。

本を読むことは、単に知識を得ることだけではなく、先人が体験したことを自分に重ねたり、歴史を紐解くことで自分たちの社会を見つめなおしたり、身近な出来事から自分を取り巻く広い世界まで、正しく「人生」に直結しているのではないのでしょうか。

子どもの読書活動の推進に関する法律の基本理念には、「子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものである」と謳われておりますが、子どもの読書意識を高めることは、その成長過程において非常に重要なものであり、大人へと成長するさまざまな場面において、一冊の本との出会いから、人生の指針や生きる力を与えられることもあります。

益々、複雑化する近代社会において、子どもたちが自分で考え、学び、社会の一員として自立していくための一助として、子どもの読書の重要性についての認識を深め、家庭・地域・学校・図書館等がそれぞれ連携・協働しながら、読書の習慣が身につけられる環境づくりを推進する必要があります。

このたび「第2期根室市子ども読書活動推進計画」を策定いたしました。

根室市の子どもたちが豊かな読書活動とかけがいのない読書体験を送れることを願います。

最後に本計画の策定にあたり、「第2期根室市子ども読書活動推進計画策定市民会議」の委員の方をはじめ、貴重なご意見、ご提言等をいただきました多くの皆様に深く感謝申し上げます。

令和2年3月

根室市教育委員会

第1章 計画策定の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

現在、社会は科学技術の進展に伴い、子どもを取り巻く環境においても様々なメディアによる情報ネットワークがあふれており、幼い頃から慣れ親しむことができる一方で、複雑・多様化する状況の中、多感な子どもたちに大きな影響があることも懸念されており、子どもたちの読書離れや活字離れが指摘されています。

本を読むということは、知識や情報を与えてくれるだけでなく、生涯にわたって人生を豊かにするとともに、子どもが生きる力を育むための大切な役割を担っています。

子どもは、読書を通じて、多くの豊かな文章に触れることにより、さまざまな考え方や出来事を知り、人間にとって必要な基礎的な能力を養うことが期待できます。

このような中、国においては、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定し、この法律に基づき「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定、北海道においても平成30年3月に第四次計画を策定し、道内における子どもたちの読書活動の一層の推進を図っています。

根室市においても、これら国・道の子どもの読書活動推進の基本的方針に則して、地域の実情等を踏まえながら、子どもたちがあらゆる機会とあらゆる場所において、本と親しみ、本を楽しむことができる読書環境の整備に向けた「根室市子ども読書活動推進計画」（計画期間：平成25年度～平成31年度（令和元年度））を策定し、子どもたちが自主的な読書活動を行える環境づくりを進めてまいりました。

これまでの計画実施の中で見えてきました社会状況及び地域環境の変化、課題や反省点を考慮した形で「第2期根室市子ども読書活動推進計画」を策定し、さらなる読書活動環境づくりに取り組んでまいります。

2 計画の対象

この計画の対象である子どもは、おおむね乳幼児から中学生を中心とした0歳から18歳までとします。

3 読書活動の対象

この計画の対象である読書活動は、活字その他文字を用いて表現された図書などを言います。電子書籍を含む電子資料も該当します。

4 計画の期間

この計画の期間は、令和2年度～令和6年度までの5年間とし、必要に応じて計画の見直しを行います。



第2章 根室市の子どもの読書をめぐる現状と課題

（「根室市子ども読書活動推進計画アンケート調査」調査結果の分析より）

1. 根室の子どもは「本」・「読書」好き！

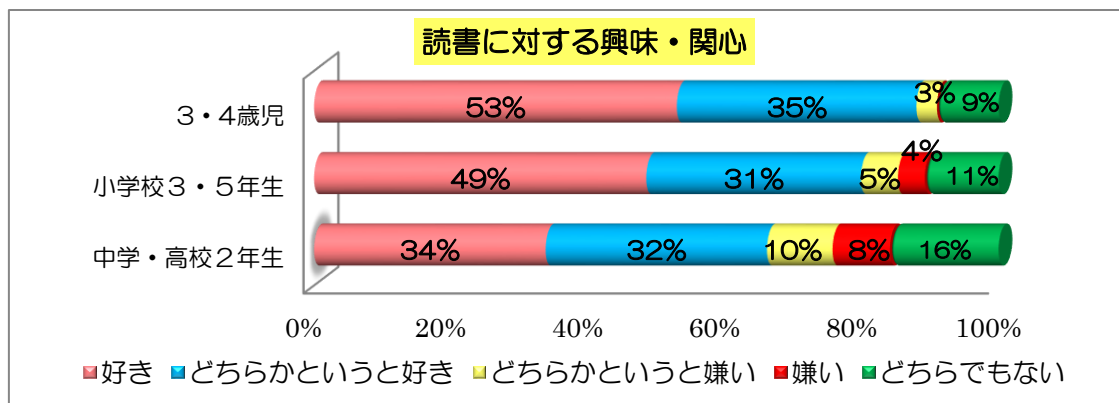
3～4歳児（保護者回答）及び小学3・5年生の88%が、「本を読むこと」が「好き」「どちらかという好き」と答え、根室の大方の子どもが、「読書」を好む傾向が明らかで、本とのふれあいを楽しんでいることがわかります。

また、中学2年生・高校2年生では、66%が「読書」が「好き」「どちらかという好き」と回答しています。

幼児・小学生と比べると低下していますが、「読書離れ」が進む小学校高学年を経て、中学・高校生での約7割の回答は、根室の中学・高校生に読書意欲が定着しているものと考えられます。

子ども読書の習慣づくりは、生涯を通じての「知力」と「生きる力」となるため、一層の推進が大切です。

さらに、中学・高校生の約2割の「不読者」の解消が課題です。



2. 根室の子どもの「読書傾向」

3～4歳児では「絵本」が多く読まれ、幼児期にふさわしい傾向が表れています。続いて「図鑑」「ものがたり」「音のなる本」と、いずれも保護者（家族）、保育士など大人の「読み聞かせ」によって伝えられるものです。

幼い子に本の世界の楽しさを伝える「読み聞かせ」の普及が、いっそう期待されます。

小学3・5年生では、「どのようなものを読むのが好きですか」の問いに、1番多かった答えが「物語」で、続く「スポーツ・趣味」や「マンガ」の本を上回っています。上記1.の「読書」「好き」の回答に、この内容がある種反映しているとも言えます。

また、同児童保護者の回答において、「小説・物語」と「マンガ」が上位でした。このことから家庭環境における「マンガ」の存在も大きいことが推察されます。

さまざまな本を知り、その読書体験の楽しさが本好きな子を育んでいく小学生期に、より多様な本との出会いの機会と環境の提供が必要です。

中学2年生・高校2年生においては、「物語（小説）」が最多で、「マンガ」「雑誌」「携帯小説（電子書籍）」と続いています。まさしく中高生の心情とニーズが表出し、やはり「マンガ」への傾倒が大きいこともうかがえます。

中学生・高校生の「読書」が嫌いな理由」の筆頭に、「文章を読むのが苦手」との「読書」に対する苦手意識が見てとれます。また、「読みたいと思う本がない」、「どんな本を読んでいいかわからない」との回答もあり、中高生へのアプローチと読書への誘引が課題です。

現状、インターネットやパソコン、スマートフォンなどの普及によりこのようなメディアを利用した「電子書籍」や「電子資料」なども発達しており、読書をとりまく環境が複雑化している傾向も見られます。

好きな本の種別ランキング	1	2	3	4	5
3～4歳児（保護者）	絵本	図鑑	ものがたり	音の鳴る本	紙芝居
小学3・5年生 児童	物語	スポーツ・趣味	マンガ	絵本	図鑑
小学3・5年生 保護者	小説・物語	マンガ	雑誌	料理・趣味	子育てに関する本
中学2年生・高校2年生	物語・小説	マンガ	雑誌	携帯小説（電子書籍）	スポーツ・趣味

* 電子書籍・電子資料の例：CD-ROMに収録された絵本

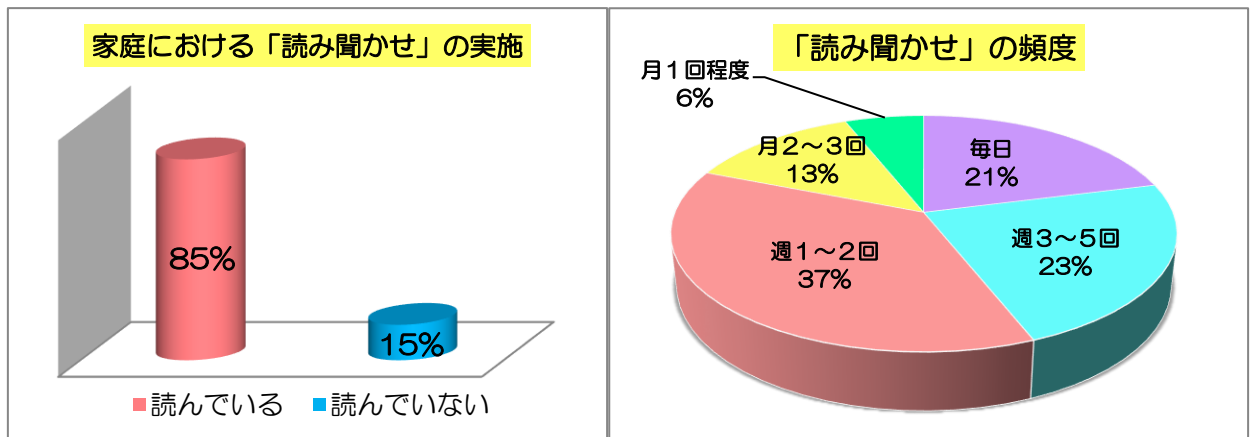
タブレット端末等に保存されている教材

インターネットからダウンロードした小説等

3. 根室の子どもの「読書時間」・「読書冊数」

3～4歳児家庭の85%で「読み聞かせ」が実施され、本にふれる生活を送っています。特に「週に1～2回」37%、ついで「週3～5回」23%と高い頻度で、「読み聞かせ」がなされています。

一方、「親の仕事が忙しい」との過半数を占める理由で、「読み聞かせ」がされていない状況が明らかとなりました。



「1日の家での「読書時間」について、小学3・5年生の約6割が「30分以内」の様子です。他は、「1時間～2時間」が多く、「2時間以上」の長時間読書児童もいます。「まったく読まない」子は、18%です。

その「読書」をしない理由で注目すべきは、「本が嫌い」が0%という答えです。このことから、潜在的な子どもの読書意欲をうかがい知れます。

ですが、テレビゲームなど子どもが興味を持つものの普及により、こうしたもので読書の時間が減少しているとも考えられます。

さらに、「1ヶ月の家での「読書冊数」については、「1冊～3冊」が41%と最多で、前回の結果では「10冊以上」が大半を占めていたことから環境の変化が考えられます。

中学2年生・高校2年生における「読書時間」は、1日に家で「15～30分程度」が、45%です。中高生で「15～30分程度」は、大方が「マンガ」や「雑誌」などの軽読書中心と推察されます。

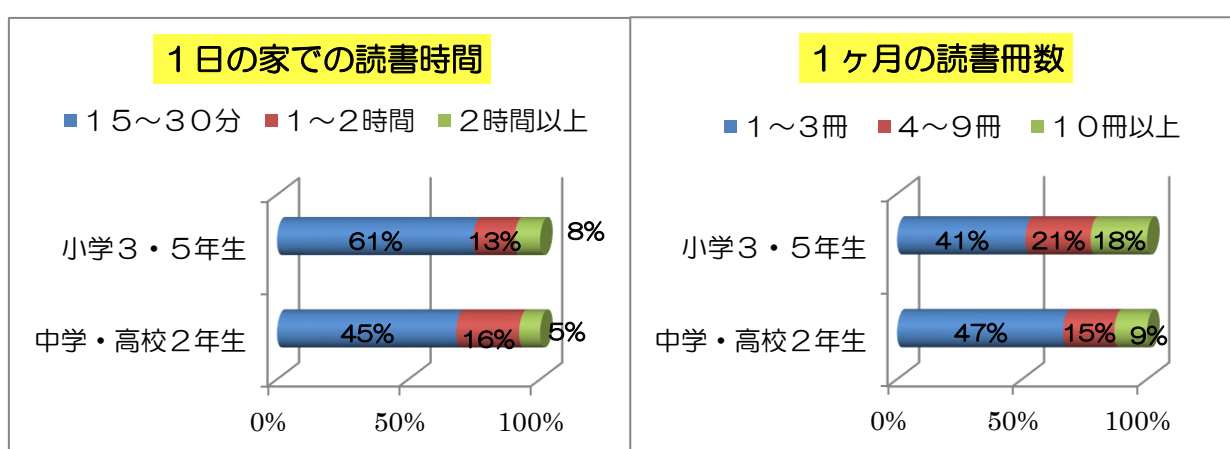
また、「1時間」以上読む中高生が21%を超えている半面、「まったく読まない」中高生が、34%と増えており、部活動やパソコン等の利用など年齢があがるほど読書以外の活動が増えてきていることが推察されます。

同じく「1ヶ月の家での「読書冊数」は、「1～3冊」が47%と最も多く、本にふれるという生活環境そのものが変化してきていると考えられま

す。

小学3・5年生も約2割が「不読」であり、中学2年生・高校2年生では、「不読」が約3割と拡大しています。この理由は、「部活やスポーツで忙しい」が1番で、続いて「パソコン（インターネット）がしたい」など「本」よりも他のメディアへの興味があげられています。また、「家にあまり本がない」との回答が1割あります。

部活や受験などの比重大きい中学生・高校生の日常生活と、多感な人間的成長期に、多面的な読書活動の推進が必要です。



4. 根室の子どもの「読書の場」

子どもの「読書スタートの場」そして主な「読書の場」は家庭ですが、それを裏づける、3～4歳児の読書としての「読み聞かせ」や親子での「本」とのふれあいが、約85%の家庭でなされています。

それをおこなっていない15%に含まれる家庭の子のうち、家庭外の幼稚園や保育所あるいは図書館等において「読み聞かせ」を体験していることも考えられます。

併せて、小学3年生・5年生保護者の調査から、「読み聞かせ」経験が「ある」96%と、ほぼ満度の回答を得ました。また、「初めての子に「読み聞かせ」を始めた年齢」について、「0歳」～「1歳」の段階で8割を超え、そして「2歳」までに9割を超える答えが得られました。いずれも、根室の家庭における「読み聞かせ」の普及率の高さがわかる結果となっています。

小学3・5年生は、「家の中」28%、「学校の朝読書の時間」31%と、小学生の生活空間と一致する答えです。学校における「朝読書」の普及・定着も見てとれます。これに「学校の休み時間」を加えると、校内においては

41%となります。

また、「図書館」における9%は、本を借りて持ち帰る比率が高く、館内での滞在読書が少ないことを示しています。

中学2年生・高校2年生は、「家の中」が52%と圧倒的に多く、思春期にある中高生の側面もうかがえます。一方、「学校の休み時間」14%には、友だちとの本の貸し借りや情報交換も含め、学校生活時間の活用が見られます。また、「学校での朝読書のみ」17%も、個人的に「読まない」生徒にとって唯一の読書時間・場の確保と言えますが、課題も含みます。

今回のアンケートにおいては、学校図書室の利用についても調査を行いました。

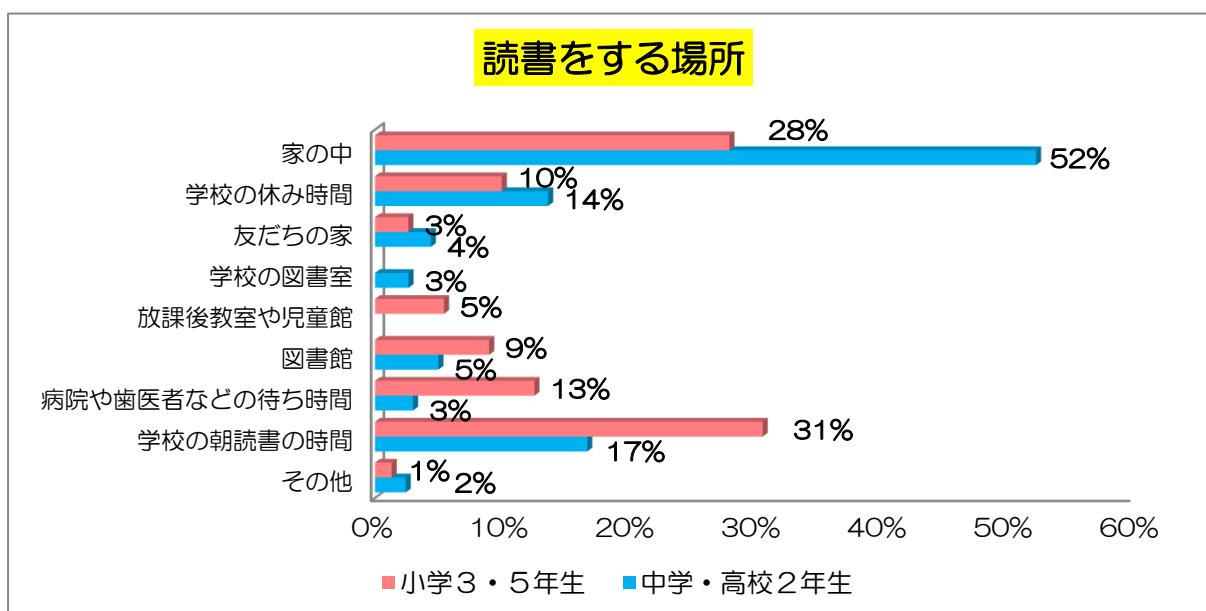
小学3・5年生では、「学校の図書室」や「図書館」の利用は、「週1回くらい」がもっとも多く、ついで「週2～3回」となっております。

目的は、「本を読むため」「調べ物をするため」が最も多く、学校図書室の本来の活用がなされていると考えられます。

また、利用しない理由については、「読みたい本が少ない」が29%と最も多く、ついで「本は自分で買っている」が22%となっており、学校図書室の蔵書の充実が利用促進につながると推察されます。

中学・高校2年になりますと利用頻度は、「ほとんど行かない」が64%と最も多く、理由としては、「本は自分で買っている」が35%、ついで「読みたい本が少ない」が30%とこちらも蔵書の充実が課題となっていると考えられます。

家庭とともに、児童生徒にとってのより幅広い本との出会いの場・読書といこいの場、そして学習支援の場としての「学校図書室」並びに「図書館」の整備と利用普及が大切です。



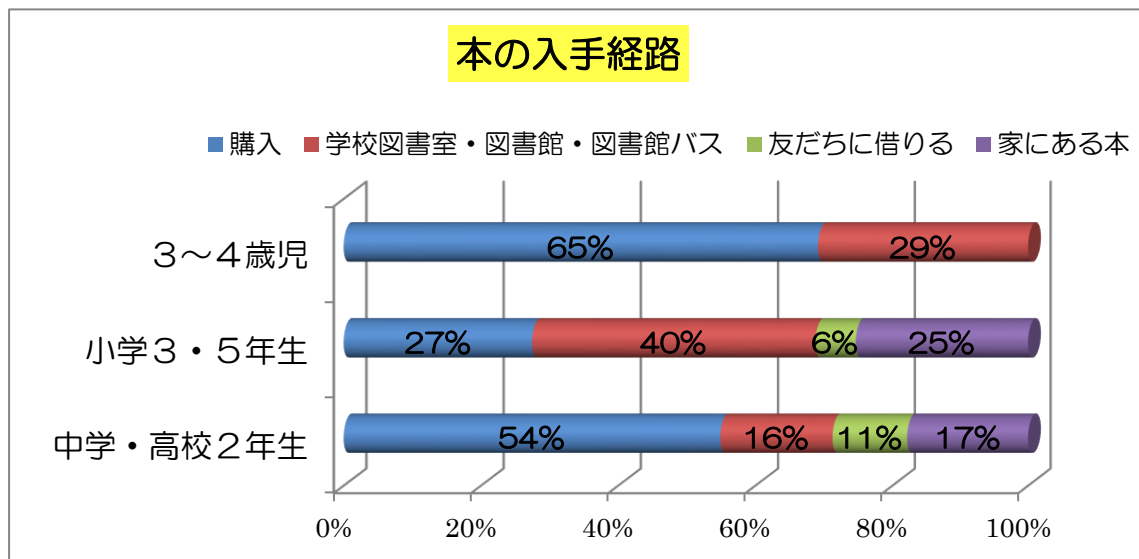
5. 根室の子どもの「本との結びつき」

調査対象の3～4歳児家庭から小学生、中学生・高校生まで、「本」の入手方法はまず「購入」で、3～4歳児家庭では65%、小学3・5年生では27%、そして中学2年生・高校2年生では54%となっております。

続いて、3～4歳児家庭と小学3・5年生では、「学校図書室・図書館・図書館バスで借りる」が29%と40%で、中学生・高校生に比べると高く、特に幼児家庭では、多くの本を有する図書館を利用する世帯が多いことがわかります。多様な子どもの本との出会いからも経済的な側面からも、子ども家庭の図書館利用の普及促進を図る一層の取り組みが大切です。

また、小学3・5年生では、「家にある本を読む」が25%で、家庭の読書環境も大きく影響します。

中学2年生・高校2年生では、「友だちに借りる」が11%あり、この世代の特徴を表しています。続いて、小学生と同様「家にある本を読む」で、家庭の読書環境の大切さを知らされます。



6. 根室の子どもにとっての「読書の大切さ」

3～4歳児保護者の実に100%が、「子どもが本を読むことが大切だと思う」「どちらかといえば思う」と答えています。「思わない」は、0%です。

また、約7割の保護者が基本的に「読書」を好み、本来「読書」が大切だと思う」と答え、幼児家庭において、「本」や「読書」に対する認識が定着していると言えます。

「読書」がよい事、大切な事だとの思いが、根室の小学生（小学3・5年生）には92%に共有されています。「読書が嫌い」「どちらかという嫌い」と答えたわずかな児童も、「読書」が大切だとの共通認識をもっていることがうかがえます。

「大切だと思う理由」は、3割の児童が「読んでいて楽しい」と、好ましい読書をしていることがわかります。そして、「知らないことがわかる」「考える力がつく」と、「読書」の効用をあげています。

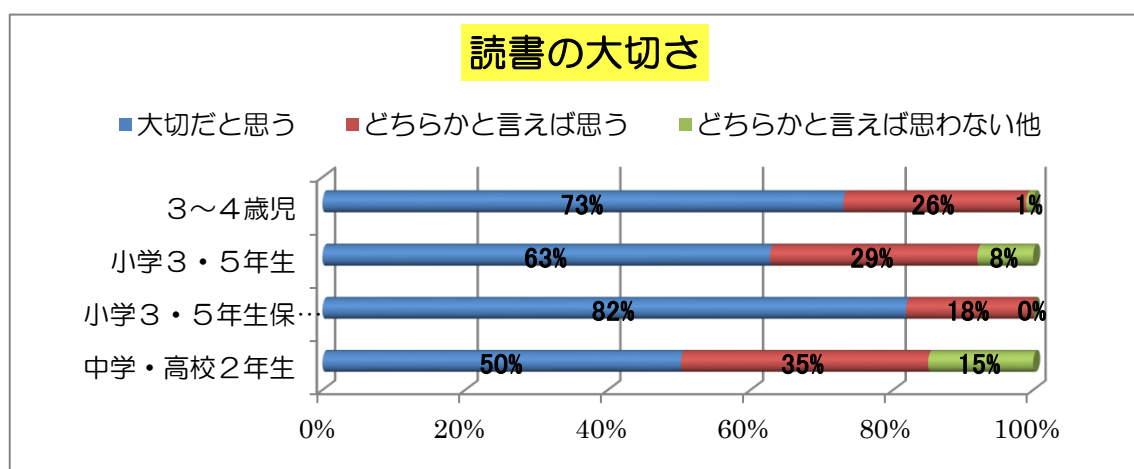
反面、「大切だと思わない理由」では、「テレビやビデオ・DVD・インターネット動画の方がおもしろい」「他にやりたいことがある」がそれぞれ3割ずつで、児童をとりまく環境の複雑化やメディアの複雑化によるものと考えられます。

小学3年生・5年生その保護者では、82%が「読書」の大切さの認識、肯定感を示しています。

中学2年生・高校2年生では、小学3・5年生児童の回答92%からは一歩後退していますが、85%が「読書」の大切さを認めています。「読書離れ」が進む世代ですが、「読書」そのものへの信頼がうかがえます。

また、その理由は「国語の力がつく」が最多で、根室の中高生が「学習活動」の一つとしてとらえている一面も受けとれます。続いて、「想像力（イメージする力）がつく」と、柔軟な回答が見られます。そして、「知らないことがわかる」「読んでいて楽しい」「考える力がつく」と、知的好奇心から言葉・知識そして思考力へと「読書」の道筋もたどれます。

かたや、中高生では、「本を読むのが面倒」、次いで「何の役にも立たない」との否定的答え、「インターネットやスマートフォンで読んだり、調べることができる」と、「読書」が大切だと思わない理由もあげられました。



7. 根室の子どもみんながもっと「本を読む」ために！

「小さいころから本を読んでもらう」と答えたのは、小学3・5年生で21%、そして中学2年生・高校2年生で25%と一番多くなっています。

ちなみに、小学3・5年生の66%が、小さい頃（小学校入学前）に、家族の人に本を読んでもらった思い出をもっていることがわかりました。同様に、中学2年生・高校2年生では、67%が経験を思い出しています。

根室の小・中・高校生の実感からの回答として、とても興味深く、乳幼児期からの家庭を中心とした「読み聞かせ」や「親子読書」の大切さ、必要性をあらためて知らされます。

次に、小学3・5年生は、「図書館（図書館バス）や学校の図書室の利用回数を増やす」と日頃の自身の関わり（自主性・自己努力）をあげ、続いて、「学校で読書の時間をもっと増やす」と小学生児童をとりまく読書環境・読書機会の向上を求めています。

中学2年生・高校2年生は、2番目に「学校で読書の時間をもっと増やす」をあげ、学校（生活）における機会の拡充を期待しています。続いて、「ちいさい頃から図書館や本屋に行く」と個人的・能動的な読書環境との関わりをあげています。

保護者の回答においても3～4歳児保護者並びに小学3年生・5年生保護者とも、「小さいときから読み聞かせをする」が最多でした。

続いて、3～4歳児保護者は、「子どもの身近な所にいつも本を置く」との回答で、保護者が幼い子どもの読書習慣や読書環境の形成に認識をもっていることがわかります。

小学3年生・5年生保護者では、次に、「小さい頃から図書館（図書館バス）や本屋に連れて行く」「小さい頃から本を話題にする」「家の人自身が本を読む機会（時間）を多くする」と答え、家庭内での意識的な習慣づけや体験（経験）の大切さを重視する意向がうかがえます。

また、児童生徒同様、学校での読書推進・対応への期待もあります。

	1	2	3
3～4歳児（保護者）	小さいときから読み聞かせをする	子どもの身近な所にいつも本を置く	小さい頃から図書館（図書館バス）や本屋に連れて行く
小学3・5年生 児童	小さい頃から本を読んでもらう	図書館（図書館バス）や学校の図書室の利用回数を増やす	テレビやゲームの時間を減らす
小学3・5年生（保護者）	小さいときから読み聞かせをする	小さい頃から図書館（図書館バス）や本屋に連れて行く	小さいころから本を話題にする
中学2年生・高校2年生	小さい頃から本を読んでもらう	学校で読書の時間をもっと増やす	小さい頃から図書館（図書館バス）や本屋に行く



第3章 計画の基本的な方針と目標

1 基本方針

本計画は、国や道の計画において示された基本的方針等に基づき、次に掲げる3つをこの計画の基本方針とします。

(1) 「本と出会う」機会の創出

子どもたちが読書の楽しさに触れ、自ら進んで読書する習慣を身につけることができるよう、家庭、地域、学校等において、それぞれの果たす役割を認識しながら、子どもの成長段階に応じて読書に親しむ機会の創出を図ります。

(2) 「本と学ぶ」環境の創出

子どもが生涯にわたる読書習慣を身につけるには、乳幼児期から本に接する環境をつくり、さまざまな場所において、読書活動を気軽に行えるよう読書環境の整備・充実に努めます。

(3) 「本と楽しむ」活動の創出

子どもの読書活動を総合的かつ計画的に推進するため、図書館、学校、保育所、幼稚園、子ども園等の関係機関が、相互に連携・協力し、子どもの読書活動を推進するための具体的な方策や情報交換に努めます。

2 基本目標

上記3つの方針に基づき、当市の実情も踏まえて、次の4つの基本目標を設け、積極的な子ども読書活動推進の取り組みを図ります。

- (1) 家庭・地域における子ども読書活動の推進
- (2) 保育所・幼稚園・子ども園・学校における子ども読書活動の推進
- (3) 図書館における子ども読書活動の推進
- (4) 関係機関、団体等との連携・協力体制の充実

3 目標指標

(1) 家庭・地域における子ども読書活動の推進

指 標	現状値 (H30)	目標値 (R7)
「マタニティブック事業」参加率	%	100%
「ブックスタート事業」参加率	100%	100%
「読み聞かせ」活動の実施回数	74 回	75 回

(2) 保育所・幼稚園・子ども園・学校における子ども読書活動の推進

指 標	現状値 (H30)	目標値 (R7)
保育所・幼稚園・子ども園・学校による 「図書館訪問」年間参加人数	276 人	300 人
保育所・幼稚園・子ども園・学校への 「移動図書館バスの巡回」年間貸出件数	7,059 件	7,100 件
学校における「朝の読書」などの実施率 (全小中学校数より)	100%	100%

(3) 図書館における子ども読書活動の推進

指 標	現状値 (H30)	目標値 (R7)
「ちいさい子のおはなし会」参加人数	358 人	370 人
「(土曜) おはなし会」参加人数	474 人	490 人
「こどものつどい」参加人数	485 人	490 人
学級文庫ブックバンク事業参加率	62%	70%
セカンドブック事業参加率	100%	100%

(4) 関係機関、団体等との連携・協力体制の充実

指 標	現状値 (H30)	目標値 (R7)
「根室市図書館ボランティア」登録人数	47 人	50 人
市民一人当たりの図書の貸出数	3.6 冊	4.0 冊

第4章 推進のための具体的な取り組み

1 家庭における子ども読書活動の推進

子どもが幼い頃から本に親しみ、本の世界と楽しさを知るためには、家庭における読書生活・読書環境の充実が大切です。

ひとりで本を読むことができない乳幼児期においては、保護者（家族）とのふれ合いの中で一緒に本に親しんだり、読み聞かせを通して、心楽しい体験を日々積み重ねてゆくことが大切です。

根室においては、幼児家庭において広く「読み聞かせ」がおこなわれており、図書館における「親子読書会」活動が長く家庭と連携していますが、いっそう保護者（家族）に読書への認識（理解）・関心を持ってもらうことが必要であり、啓発と体験をうながす取り組みを進めなければなりません。

〔具体的な取り組み〕

①読み聞かせ・親子読書・「家読」のすすめ

本の楽しさと、読書によってもたらされる豊かな心を育む時間を親子で分かち合うことの大切さを伝えていきます。

「読み聞かせ」をはじめとして、親子で読んだ本について語り合う「親子読書」、さらには生活リズムチェックシート「読書習慣編」等の活用など、家庭における家族の時間の充実と心を寄せ合う読書体験の「家読」（うちどく）をすすめます。

そうした家庭の日々による、子どもの読書習慣の形成をめざします。

②「子どもブックライフ応援事業」の推進と家庭における活用

新しい取り組みとして妊娠中の女性が、おなかの中のあかちゃんに絵本を読んで語りかけることにより、豊かな家庭環境や胎教効果を育めることから「マタニティブック事業」を実施し、妊娠中の女性に絵本を進呈します。

続いて「7ヶ月児健康相談」の際に、絵本の楽しさを知ってもらう第一歩として、「ブックスタート事業」を実施し、親子に絵本を手渡しています。事業の継続とともに、家庭での「読み聞かせ」と絵本の活用をうながします。

また小学校入学時においては「セカンドブック事業」として1年生児童に

本を手渡しております。これらを子どもブックライフ応援事業と位置づけ、子どもたちへの成長に合わせたフォローアップを実施します。

③親子読書のすすめ

保護者に、読書の大切さと子どもの本の選び方などを情報発信し、図書館の利用をうながすためのリーフレットやおすすめ絵本リストを作成し、さまざまな機会をとらえて配布します。

「子どもブックライフ応援事業」としても有効な活用を提案し、「親子読書」・「家読」体験と思い出づくりの道案内をします。



*「家読（うちどく）」運動

家族みんなで同じ本を読んだり、本について話したり、寝る前の10分間は本を読むようにする、あるいは、家族一緒に図書館に行く日を決めるなど。決まったスタイルはありません。家族で話し合って、ぜひ我が家流を！

2 地域における子ども読書活動の推進

地域には、図書館をはじめとして子育て相談所や放課後児童教室など、子どもの読書活動に関わる取り組みをしている施設があります。これらの施設では、それぞれの特性を活かしながら、子どもやその保護者（家族）に対して子どもの読書活動を推進するための取り組みを実施しています。

このことから、地域の施設では、子どもや保護者（家族）に対して、魅力的な取り組みや学習の機会また利用しやすい読書環境を整備・提供するとともに、利用促進のための積極的なPRが必要です。

また、民間団体（市民）の活動による取り組みとして、読書会や読み聞かせグループなどの読書関係団体、子育てサークル、PTAなどがあります。

これら団体・グループでは、読書機会の提供や読書環境の整備・充実のためにさまざまな活動をしており、子どもの読書活動の広がりにつながる更なる取り組みを進めます。

〔具体的な取り組み〕

① 子育て相談所における普及と推進

来所する親子に、絵本の「読み聞かせ」や貸出を行い、興味が持続されるように努めます。また、積極的な図書館行事の紹介をします。

つどいの広場「クルクル」においては、年齢に応じた絵本の展示や、希望者の本を貸し出して、親子が本に触れる機会を設けます。図書館と連携しての「おはなし会」の開催などに取り組みます。

また、子育てサークルについては、サークル支援の場で、対象年齢にあわせた・絵本・紙芝居などの「読み聞かせ」を行います。

② 母子保健分野における推進

妊娠中の女性が、おなかの中のあかちゃんに絵本を読んで語り掛けることにより、豊かな家庭環境や胎教効果を育めることから「マタニティブック事業」を実施し、妊娠中の女性に絵本を進呈します。

「子どもブックライフ応援事業」の実施の中で、誕生から学童期までの読書環境づくりの意義を保護者に伝え、図書館の積極的な利用をうながします。

③ 公民館における取り組み

幼児親子向け公民館事業「あそびの広場」を子育て相談所と合同開催し、

プログラムに絵本や紙芝居の「読み聞かせ」などを取り入れ、読書意欲の向上をめざします。

楽しい親子読書体験の機会の提供と家庭における「読み聞かせ」や親子のふれあいをうながします。

④放課後児童教室・児童館における取り組み

放課後教室などにおいては、読み聞かせの場や読書の時間づくりに努め、子どもたちが本に親しむ機会提供の充実をはかります。

また、同施設指導員による日常的な「読み聞かせ」の機会と合わせ、季節行事などの折に触れ、関連本の紹介や「読み聞かせ」を行います。

移動図書館バスの定期巡回を活用し、子どもたちの個人利用をすすめ、さらに団体貸出により教室内などに本を配置するなど、子どもたちの身近な読書環境づくりに努めます。

子どもの読書推進に関わる同施設指導員の意識の醸成をはかります。

⑤民間団体の取り組み

図書館ボランティアなどの関係団体との連携により子ども読書の普及と推進をはかります。

ボランティア団体・読書会など民間団体と連携して、読書に関する情報提供や活動支援の充実をはかります。



3 保育所・幼稚園・子ども園における子ども読書活動の推進

家庭とともに、子どもの人間形成の基礎を担うのが、保育所・幼稚園・子ども園です。一日の多くの時間を過ごす保育所・幼稚園・子ども園で、年齢に応じたさまざまな遊びや本との出会いを通して子どもたちは、豊かで安定した心を育んでいきます。

家庭とは違う雰囲気や一体感のなかで、子どもたちは保育士（教諭）や友達と一緒に絵本を楽しむことで、いっそう本に対する興味や関心が高まります。

市内保育所・幼稚園・子ども園では、移動図書館車巡回を積極的に利用し図書の団体貸出など、所・園内の読書環境づくりに役立て、読み聞かせに活用しています。

今後、発達段階に対応した園児への読み聞かせ・読書体験のいっそうの推進、さらには、所・園での読書体験が家庭での読書につながるよう連携した取り組みを進めます。

〔具体的な取り組み〕

①市内の保育所・保育園・子ども園の読書環境の整備・充実

園児が本により興味をもつよう、移動図書館（図書館バス）や図書館の団体（長期）貸出などを利用し、園児たちの身近に、年齢に応じた幅広い絵本や紙芝居の配置をすすめます。

②保育士・幼稚園教諭による子ども読書の普及

保育士や教諭がいっそう読書への理解と親しみを深め、園児たちへの「読み聞かせ」を行い、また、さまざまな所・園の行事を通して日常的に本の楽しさを伝えます。

③読書の大切さについての家庭への理解の促進

参観日、保護者会等を利用し、保護者への「読み聞かせ」体験と読書について理解を促すとともに、所・園だよりなどを通じて啓発に努めます。

また、所・園の絵本の貸出などの活用を促し、家庭での読書環境の充実を支援します。

4 学校における子どもの読書活動の推進

学校は、子どもの読書意欲や習慣を形成していく上で、大きな役割を担っています。

そして、学校図書室は学校の読書センターと学習センターの機能をあわせもっています。

根室の子どもたちは、おおむね読書好きで読書の大切さを理解し、読書がもたらしてくれる楽しさやその力に信頼を寄せていますが、近年、パソコンやスマートフォンの普及により、生活において本にふれる時間が減少していることも課題となっています。

こうした状況、さらには学習指導要領を踏まえ、児童生徒による主体的・意欲的な読書活動の充実が図られるよう、教職員・関係者が連携・協力する中で各種取り組みを進めます。

〔具体的な取り組み〕

①「朝の読書」の推進

市内小中高校で取り組んでいる「朝の読書」の効果的な推進とともに、昼休みや放課後の読書活動を通じ、児童生徒の読書への親しみと習慣化をはかります。また、学力の向上につながる読む力の定着をめざします。

② 学校図書室の整備と利用普及

学校図書室の図書購入予算の確保に努め、学校図書の整備充実をはかります。あわせて利用を促進するための空間づくりや蔵書のデータベース化と併せ図書館システムとの連携に向けた環境整備に努め、学校内における読書環境の向上と利用普及をめざします。

児童生徒の自主的な図書活動の活性化を図り、本に親しむ体験の充実や児童生徒のアイデアを受け、利用普及に活用します。

また、移動図書館バスによる巡回により、学校図書室の蔵書補完を実施し、学校内での読書環境の充実をはかります。

③ 学校図書室の活用

学校における調べ学習などで学校図書室を利用することで活用を活性化します。

辞書や辞典・参考書などの使い方や本を利用することによる学習の広がりなどを提案します。

④ 教職員意識の高揚

児童生徒の豊かな心を育み、学習の基盤となる子どもの読書について、教職員がいっそう認識を高め、児童生徒の読書活動をうながす校内の意識の高揚をはかります。また、学校司書の配置や校内の協力体制の充実に努めます。

学習の場、情報の場としての学校図書室の重要性を理解していただくための連携体制の強化、関連事業・研修などの協力をはかります。

⑤ 保護者・家庭への働きかけ

子どもの読書習慣の獲得には、家庭と学校との連動が大切です。学級通信や学校だよりなど児童生徒を通じての学校情報や、参観日・PTA会合など保護者との懇談の機会に、読書の意義や家庭読書のすすめを行い、保護者とともに、子どもの読書活動を支える力となります。



5 図書館における子ども読書活動の推進

図書館は、子どもがたくさんの本と出会い、自由に読みたい本を選んで読書に親しみ、読書の喜びを知ることができる場所です。

また図書館は本に関する様々なネットワークの中心となる施設であり、読書活動と資料の活用に関する知識と経験を持っています。地域の読書活動の推進拠点として、読書環境の整備・充実に努め、多様化する子どもの読書意欲を向上させる活動を推進します。

読書が好きな根室の子どもたちが、いろいろな本を通して、多様な世界と夢を広げ、しなやかでたくましい心と生きる力をたくわえて成長するよう、図書館は支援します。

〔具体的な取り組み〕

① 各施設・教育機関との連携

子どもたちがたくさんの本と出会い、親しめる環境として図書館のみならず、市内各施設及び教育機関との連携でさまざまな場面で本にふれる機会をつくってまいります。

幼い時から、市図書館（公共図書館）に親しみ、より本との接点を広げ、読書と図書館利用の習慣化をはぐくむために、保育所では図書館訪問を行います。その際には、図書館司書が館内を案内し、読み聞かせなどの楽しいひと時を提供します。

また、1年のしめくくり、「メリー・サンタクロース～図書館からのおくりもの」と題して、保育所・幼稚園・子ども園へ司書が訪問するなど、子どもたちの心に響く連携事業を進めます。

同時に、読書環境の充実のため、電子書籍を含む電子資料の活用方法について学習し、子どもたちはもとより保護者の理解を得ながら、適切な利用促進をはかります。

② 子どもが利用しやすい図書館の環境づくり

子どもが利用しやすい館内の雰囲気づくりと設備（書架の工夫など）の充実をはかるとともに、乳幼児家族がくつろげるひと時を「おはなしのへや」で過ごせるよう活用をすすめます。

また、状況に応じて、中高生の学習やグループ活動の場として、図書館の各スペースの提供に努めます。

③ 年代別資料の充実

乳幼児絵本から「十代の本棚」（中高生向けコーナー）まで、年齢や発達段階に応じた資料の収集と充実をはかり、子どもたちの読書意欲を喚起する蔵書に努めます。

④ 移動図書館（図書館バス）サービス

市内保育所・幼稚園・小中学校・放課後児童教室並びに児童館をサービス拠点として、主に図書館に遠い郡部地域の子どもたちのもとへ移動図書館（図書館バス）「大地みらい号・あすなろⅣ」の定期巡回により、図書館全域サービスと読書普及、学校などへの支援に努めます。

⑤ 「子どもブックライフ応援事業」の推進

妊娠中の女性が、おなかの中のあかちゃんに絵本を読んで語りかけることにより、豊かな家庭環境や胎教効果を育めることから「マタニティブック事業」を実施し、妊娠中の女性に絵本を進呈します。

また、子どもと本との出会い、本を仲立ちに親子のふれあいとコミュニケーションをはぐくむ「ブックスタート事業」を、7ヶ月児健康相談の際に、保健課と連携し図書館ボランティアの協力も得ながら進めます。

さらに、小学校入学時の「セカンドブック事業」にも連動させる中で、事業の継続と充実をはかります。

図書館利用を呼びかけ、「ちいさい子のおはなし会」などへの参加を案内し、家庭と図書館双方での子どもの成長と読書体験をうながします。

併せて、絵本作家による絵本講演会や人形劇などを開催し、乳幼児から学童期までのとぎれのない「本の楽しさ」を広げてまいります。

⑥ 「おはなし会」の開催と読み聞かせの普及

「ちいさい子のおはなし会」「（土曜）おはなし会」の開催

子どもと本を結びその楽しさを伝えるために、0～3歳くらいの親子を対象に「ちいさい子のおはなし会」を、幼児～小学生を対象に「（土曜）おはなし会」を、定期開催します。

子どもをはじめ保護者（家族）に広く参加を呼びかけ、読み聞かせによる読書体験と図書館の利用をすすめます。

⑦ 「こどものつどい」など子ども向け集会行事の開催

子どもたちに本から広がるいろいろな楽しさや体験の機会の提供と、読

書普及のために、季節に合せたテーマで「こどものつどい」を開催します。
集会行事を通して、広く市民に子どもの読書活動への関心を喚起します。

⑧子ども向け各種本展の開催

「おすすめの絵本コーナー」など特集テーマ本展や、「こどもの読書週間」などの展開に合せた各種本展を開催します。
多様で魅力的な本を紹介し、子どもの読書意欲の向上をめざします。

⑨図書館訪問や「調べ学習」などの学習支援

図書館見学や訪問学習を受け入れ、子どもたちの図書館（公共図書館）の機能（働きと利用方）の理解をうながし、利用をすすめます。
また、「調べ学習」などに応えるための図書資料の整備充実をはかり、学習支援に努めます。

⑩「学級文庫ブックバンク事業」団体貸出の推進

学校における恒常的で身近な子どもの読書環境づくりのために、「学級文庫ブックバンク事業」として、団体貸出による学級（学校）文庫の利用と配置を一層推進します。

⑪「読書推進 学校等訪問事業」の実施と学校支援

図書館司書が学校等に出向いて、読み聞かせやブックトーク（本の紹介）など子ども（児童生徒）と先生に読書普及活動、読書推進を行います。
また、学校図書室や読書についての相談など学校と連携しながら推進します。

⑫「親子読書会」の育成と支援

「根室方式」と呼ばれる40年を越えた親子読書会活動は、他地域にはなく、本市が誇れるまさしく子どもの読書推進活動です。

図書館主催事業としての「1・2年生親子読書会」の発会と育成をすすめ、子どもの読書習慣の形成と家庭における親子読書の普及、そして図書館利用の促進に努めます。

さらに、3年生時からの「親子読書会」活動を支援します。

⑬図書館ボランティアとの協働

「子どもブックライフ応援事業」や「おはなし会」、子ども向け図書館行事、さらには図書館の児童図書の充実のために活躍する図書館ボランティア

アとの連携を図るとともに、「古本市」実行委員会などの活動を支援します。

⑭広報活動

「図書館ニュース／こどもしんぶん」や「広報ねむろ」、またホームページや館内OPAC（図書検索機）のお知らせなどを活用し、子どもの読書に関わる情報提供や子ども読書活動の推進啓発に努めます。

⑮オンライン蔵書検索の充実

図書館利用をより身近に迅速にするために、パソコンやスマートフォンを利用し、いつでも家庭や学校から、蔵書検索や予約が可能となるオンライン蔵書検索システムでのサービス提供に取り組み、読書意欲の向上と利用向上をめざします。



第5章 推進体制の整備・充実

1 関係機関等との連携・協力体制の推進

子どもの読書活動の推進に関わる関係機関・活動には、保育所・幼稚園・子ども園、学校、図書館、公民館、児童サービスセンター、放課後児童教室・児童館、親子読書会、おはなし会・図書館ボランティア、書店などがあります。これら子どもの生活全般に関わる関係機関が、相互に情報交換や交流を深め、連携・協力し、読書活動のさらなる普及につながる関連事業を効果的に推進します。

〔具体的な取り組み〕

① 保健課と図書館の連携・協力

保健課が主管する7ヶ月児健康相談の際に、連携・協力して「ブックスタート事業」を展開します。

② 保育所・幼稚園・子ども園、学校、放課後児童教室・児童館と図書館の連携・協力

子どもが身近に本・読書に親しむことができるよう団体貸出など図書資料援助と、また「訪問事業」を通して読書の楽しさを普及するとともに、連携して図書館利用をうながします。

併せて、読書環境の充実のため、電子書籍を含む電子資料の活用方法について学習し、子どもたちはもとより保護者の理解を得ながら、適切な利用促進をはかります。

③ 司書教諭との連携・協力

市内各学校の司書教諭と図書館が交流を深め、連携・協力して子どもの読書活動推進をはかります。

④ 図書館間における連携・協力

道立図書館との連携及び根室管内図書館と連携・協力し、相互に子どもの読書活動推進についての情報を交換し、また、研修の機会を通して、読書活動を担う司書の研修機会の拡充をはかります。

2 推進体制の整備

子どもの読書活動推進のためには、読書に関わる機関や団体などから幅広い意見を聞き、連携した体制で取り組む必要があります。そのため、根室市図書館協議会などの多様な意見の反映に努めます。

また、読書活動を推進する支援者としてのボランティアの体制を進めます。

〔具体的な取り組み〕

① 「根室市図書館協議会」との連携

市民意見を反映させながら本計画を円滑に推進するため、「根室市図書館協議会」を検討機関として、計画に基づく取り組みの進捗状況等について随時報告し意見を求めています。

② 「根室市図書館ボランティア」の発掘・育成

子どもの読書活動を支える図書館ボランティアの人材発掘及び育成を進めます。

3 啓発・広報活動の推進

読書活動の意義や楽しさについて、図書館のさまざまな事業を通して積極的に情報提供を行い、市民の理解と関心を広める周知啓発をはかります。

特に、春の「子ども読書の日」及び「こどもの読書週間」や秋の「読書週間」など、さまざまな機会を利用して、子どもの読書活動推進に向けた市民全体での気運が高まるような啓発・広報活動を展開します。

〔具体的な取り組み〕

① 「子ども読書の日」を中心とした「こどもの読書週間」啓発・広報

「子ども読書の日」（4月23日）は、広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために「子どもの読書活動の推進に関する法律」において定められました。その趣旨にふさわしい関連事業の実施に努めます。

②各種情報の収集・提供

図書館では、子どもの読書活動に関する情報の収集・提供に努めています。他地域の読書活動の様子やボランティア団体等の取り組みについての情報を提供し、当市で読書活動に携わる人たちの意欲を高め、活性化へと導きます。

また、読書活動の意義や優れた取り組み、図書資料等の情報について、啓発・広報を行い、子どもの読書活動を推進します。

<資料編>

「根室市子ども読書活動推進計画アンケート調査」集計結果 …………… OP

<参考資料>

- ・子どもの読書活動の推進に関する法律（文部科学省）…………… OP
- ・子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画概要（文部科学省）… OP
- ・第2期根室市子ども読書活動推進計画策定市民会議設置要綱
- ・根室市子ども読書活動推進計画策定市民会議実施状況
- ・根室市子ども読書活動推進計画策定市民会議委員名簿